

ジャパンパック

段ボール魚箱 実用めど

来年の本格生産目指す



機能性段ボール製造のジャパンパック（滑川市北野、長田宏泰社長）は、鮮魚や干物などの輸送や保管に使う段ボール製魚箱「Nフィッシュ」の実用化にめどを付けた。段ボールに装着した防水フィルムを交換するだけで繰り返し利用できるため衛生的でコストも抑えられる。既に試作品評価や量産機械などの準備を進めており、来年をめどに本格生産を目指す。

魚市場やスーパーなどでは、魚介類の保管に発泡スチロール製容器が使われているが、食品衛生の観点から繰り返し利用すると、雑菌の繁殖などが懸念される。しかし、使うたびに容器を新品に取り換えると、廃棄費用を含めコストがかさむのが課題となっている。

Nフィッシュは、段ボールを一枚のフィルムで包み込む防水性を持たせた容器で、使うたびにフィルムを取り換えることで衛生面の問題を解消できる。段ボール箱は何度も使える上、利用しない時は折りたたむため、保管スペースも発泡スチロール製容器の4分の1で済むという。

フィルム交換を簡単にするなど、当初の開発品から改良を重ねるとともに、地元の漁業などにサンプルを提供し実用化への準備を進めてきた。利用者からは「早く量産してほしい」との要望もあり、来年をめどに実用化にこぎ着けたい考えだ。

ジャパンパック 段ボール魚箱 実用めど

機能性段ボール製造のジャパンパック（滑川市北野、長田宏泰社長）は、鮮魚や干物などの輸送や保管に使う段ボール製魚箱「Nフィッシュ」の実用化にめどを付けた。段ボールに装着した防水フィルムを交換するだけで繰り返し利用できるため衛生的でコストも抑えられる。既に試作品評価や量産機械などの準備を進めており、来年をめどに本格生産を目指す。

魚市場やスーパーなどでは、魚介類の保管に発泡スチロール製容器が使われているが、食品衛生の観点から繰り返し利用すると、雑菌の繁殖などが懸念される。しかし、使うたびに容器を新品に取り替える、廃棄費用を含めコストがかさむのが課題となっている。

Nフィッシュは、段ボールを1枚のフィルムで包み込む防水性を持たせた容器で、使うたびにフィルムを取り替えることで衛生面の問題を解消できる。段ボール箱は何度も使える上、使用しない時は折りたたむため、保管スペースも発泡スチロール製容器の4分の1で済むという。

フィルム交換を簡単にするなど、当初の開発品から改良を重ねるとともに、地元の漁業などにサンプルを提供し実用化への準備を進めてきた。利用者からは「早く量産してほしい」との要望もあり、来年をめどに実用化にこぎ着けたい考えだ。